

別 添

平成20年 8 月 27 日
 水稻の作柄に関する委員会

水稻の作柄に関する委員会（第 3 回）の意見

- 1 8 月 15 日現在調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響
 - (1) 7 月から 8 月上旬にかけて、東日本及び西日本では高温・多照で推移したが、北日本では 7 月に入り寡照傾向で推移し、8 月に入り一旦回復したものの、中旬以降は、低温傾向となった。
 今後の天候の見通しでは、東日本及び西日本では気温は平年並みか高い見込みであるが、北日本では、8 月下旬は低い見込みであり、その後は平年並みか高いと予想されている。
 - (2) 本年の水稻は、初期生育はやや抑制され、穂数は平年並みからやや少なくなっているが、その後生育は回復し、もみ数は平年並みからやや多くなっている。
 上記のような気象の推移・予報からすると登熟は、倒伏などの大きな障害がなければ、おおむね平年並みに推移すると見込まれる。
- 2 次期の調査に当たって留意すべき事項
 - (1) 北日本における 8 月中旬以降の低温・日照不足が登熟に及ぼす影響に留意する必要がある。
 - (2) 東日本及び西日本では、高温による乳白米や斑点米カメムシ等による品質への影響に留意する必要がある。
 - (3) 今後の台風や前線に伴う集中豪雨等が登熟に及ぼす影響に留意する必要がある。
- 3 次期のもみ数確定期調査の調査期日
 本年の水稻は、5 月から 6 月の低温・日照不足により生育が抑制されたものの、7 月以降、高温・多照に推移し、出穂は平年並みないしやや早くなっていることから、次期の調査は 9 月 15 日現在とすることが適当と考える。

【参考】

水稻の作柄に関する委員会委員

(座長) 畑 中 孝 晴	社団法人農林水産先端技術産業振興センター顧問
秋 田 重 誠	公立大学法人滋賀県立大学名誉教授
黒 田 栄 喜	国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授
丸 山 幸 夫	国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授
近 藤 始 彦	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長
長谷川 利 拡	独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域主任研究員
諸 岡 浩 子	気象庁地球環境・海洋部気候情報課調査官
米 本 博 一	全国農業協同組合連合会常務理事
築地原 優 二	全国農業協同組合中央会農業対策部長
安 藤 勲	全国米穀販売事業共済協同組合常務理事